家庭数

令和３年度　６月号　　令和３年 ５月 28 日発行
横浜市立東汲沢小学校

“輝け！ひぐみっ子”だより

～東汲沢小学校教育目標「 学びあい 高めあい まちとともにあゆむ ひぐみっ子 」～

☏861-5531　https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/higashigumisawa/

自分で考える

校 長　丹 羽 正 昇

梅雨の季節。絵本作家の安野光雅さんの言葉を思い出します。安野さんによれば、最近の天気予報は、天気予報以外のことも伝えるので、自分で考えなくなってしまうと言います。「雨になるので、傘を持ってお出かけされたほうがよいでしょう。」「（肌寒いので）服を一枚多めに着ていきましょう。」などが、それに当たるらしいのですが、よいアドバイスのようにも思えるこれらの言葉が、どうして自分で考えなくなるきっかけだと安野さんはおっしゃっているのでしょうか。それを考えるヒントになるかもしれない、私の体験談に暫しおつきあいください。

これは各教室を回っていたときの話です。

朝読書をしている子から、「校長先生の好きな本ってなに？」と尋ねられました。私は、少し考えてから、「なんだと思う？」と逆に質問をしたのです。その子は、「ううん。」と唸ってから、「わかんない。」と答えました。

別の日、これも各教室を回っていたときの話です。

ある教室の入口近くに座っている子が、「校長先生は、どうして学校をぐるぐる回っているの？」と聞いてきました。私は、少し考えてから、「みんなに会いたいからだよ。」と答えました。そうすると、質問した子は、満足そうに「そうなんだ。」と言ってにこにこしていました。

この二つの話、いかがでしょうか。

私は、日頃から、子どもが考える授業を目指しましょうと職員に話をしています。また、子どもが考えるには、授業中に教師が問い返すことが大切だとも話しています。その意味では、一つめの話より二つめの話のほうが、子どもは考えていると思われた方がいらっしゃるかもしれません。しかし、実際は、二つとも子どもが自分で考える機会を生み出してはいないのです。

二つに共通しているのは、子どもが自分で考える際の情報に課題があるということです。一つめの話では、私の読書経験や我が家の本棚の状況を知らないのですから、子どもは問い返されても分からない。つまり自分で考えるだけの情報が足りないのです。これは論外。二つめの話では、校長が学校を回っている状況を知っていたり、学校を回った経験がその子にもあったりするわけですから、自分で考えるように問い返しても情報不足ということはありません。むしろ、私が「みんなに会いたい」という余計な情報を与えてしまっているわけです。

冒頭の安野さんの話に返ると、最近の天気予報は、本来必要のない情報まで視聴者に与えてしまっているということです。たとえば、いまは晴れているけど、これから雨が降るらしい。そんなとき、傘をもっていくかどうかは、自分で考えて決めるべきであり、人に言われて決めることではないということです。なるほどそうか。傘を持っていって雨が降らなくても、逆に持っていかなくて雨に降られても、いずれも自分のせいであり、自分のせいなら納得もいくというわけか。さらに言えば、傘が必要かどうかは天気予報だけでなく、他の情報（実際に空を見上げる、似たような状況やいままでの経験を思い出す　等）を主体的に得て、適切に判断する。安野さんがおっしゃる自分で考えるとは、概ねそういうことなのでしょう。

自分で考えるためには、情報に基づいて、自分でイメージすることがポイントだったということですね。そうであるならば、子どもがイメージできなかったり、子どもがイメージする機会を奪ったりする（大人の先入観や価値観を押し付ける）ことは、極力避けなければならない。改めて考えさせられました。